

2016.10.23 年間第30主日

## 優等生の祈り、道をふみはずした者の祈り

ルカ18章9-14節

（そのとき）自分は正しい人間だとうぬぼれて、他人を見下している人々に対して（も）、イエスは次のたとえを話された。「二人の人が祈るために神殿に上った。一人はファリサイ派の人で、もう一人は徴税人だった。ファリサイ派の人は立って、心の中でこのように祈った。『神様、わたしはほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦通を犯す者でなく、また、この徴税人のような者でもないことを感謝します。わたしは週に二度断食し、全収入の十分の一を献げています。』ところが、徴税人は遠くに立って、目を天に上げようともせず、胸を打ちながら言った。『神様、罪人のわたしを憐れんでください。』言うておくが、義とされて家に帰ったのは、この人であって、あのファリサイ派の人ではない。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。」

### 説教

わたしの家のまわりの道路は一方通行だらけです。住宅地だからということもあるのですが、とにかく一方通行ばかりです。わたしは（大きな声ではいえないのですが）近所のコンビニに自転車でいくときは一方通行を無視しています。自動車の運転もするので一方通行を逆走していると、とくに交差点で危ないことは承知していますが、とにかく一方通行だらけで移動には不自由です。先週、ある方が我が家に再訪されました。家につくなりこの近辺は一方通行が多く、自転車で来たのだが道にまよってしまい、到着が遅れたといっていました。その方はお役人だったので交通違反ができないともいっていました。もし、違反を誰かに見られたら大変なだからって言っていました。なるほどそうですよね。このあいだ友人が一方通行を逆送するバイクに乗ったおまわりさんの話をしてプンプンしていました。

さて、きょうの福音ですがファリサイ派の人と徴税人の祈りについて記されています。たとえばはファリサイ派の方は「自分を正しい人間」とおもっている人の代表で、一方徴税人はそうではない人を代表しているようです。

**ファリサイ派の人は立って、心の中でこのように祈った。『神様、わたしはほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦通を犯す者でなく、また、この徴税人のような者でもないことを感謝します。わたしは週に二度断食し、全収入の十分の一を献げています。』**

**ところが、徴税人は遠くに立って、目を天に上げようともせず、胸を打ちながら言った。『神様、罪人のわたしを憐れんでください。』ルカ 18:11-13**

心の中で祈った、ってところがいいですね。声に出して祈っているんじゃないの嫌味になります。話はそれますが「祈り」は他人に聞かせるためにあるのではなく、神に対して祈るものです。わたしは立場上、声に出して祈ることが多いのですが祈りとは本来こころの中で祈るものだと思います。

さて、一方通行を遵守しなければならない、交通ルールを守ろう、と思っている人ですが、ファリサイ派の人に似ているところがあります。律法を守ることで神に感謝を捧げているファリサイ人と、法律ファースト、法律を遵守することを第一に考える人、非難されるところはないはずですが、今日の福音では律法ファーストのファリサイ派は否定されています。本田神父の訳した聖書にはきょうの箇所の小見出しが『鼻もちならない「優等生」の祈りと、神の心をうごかす「道をふみはずした者」の祈り』となっています。

たとえの話ですから、両極端を記しているのですが、どちらもどっちなあという感想を持つ方も多いと思います。この福音をはじめて聴いたとき、わたしは徴税人の慟哭の祈りにこころを動かされました。祈るのならこの祈りを見習わなければと思いました。でも、本気でこのような祈りをやろうと

思ってもなかなかできないことに気づきます。本気になるところがズレていたんですね。本気で神に従おう、イエスに習おうとする、そこがポイントです。その地平に立つとき人は自分の罪に気づき「憐れんでください」という祈りが導かれるのでしょうか。

1980年代のことですからもう40年近く前にはやった「良い子・悪い子・普通の子」というネタのテレビ番組がありました。きょうの福音を読んでいて普通の子が登場しないなあ、イエスの時代にいた普通の子はこのたとえにはどのような形で登場するのかなあと感じました。ひるがえっていまの日本にも「普通の子」という価値がうすまっているなあ、と思います。神の目から見た普通の子とはどのように写るのでしょうか。全員が全員、優等生になるわけではなく、また道をふみはずすわけでもありません。いまのわたし、あなたが、ありのままの姿で神の目にどう写っているのでしょうか。普通の子の祈りはどのように神のみこころにとどくのでしょうか。

-----